

連続講演会

ひぐま



デイズ

場所：知床博物館 映像展示室
入場無料・申込不要

3月1日(水) 18:30~20:30

☆ こんなに簡単！ ヒグマによる事故の防ぎ方

山中 正実 (知床博物館)

ヒグマというとどう猛な動物というイメージが強いですが、その実態は、これほどまでに人を襲わないのは驚きといっても良いほどなのです。しかし、強力な力を持つ大型の動物であり、昔から不幸な事故がときおり発生してきているのも事実です。それほど恐れることもありませんが、あなどるべからず、です。ちょっとしたことに気を付ければ、事故を防ぐことができます。ここ数年はヒグマによる事故が道東地方でも発生するようになってきました。山の神、キムンカムイとの正しい付き合い方を学んでみませんか。

3月2日(木) 18:30~20:30

☆ 知床のヒグマ管理の現状とこれから～知床半島ヒグマ管理計画改訂に向けて～

前田 尚大 (環境省ウトロ自然保護官事務所)・増田 泰 (公益財団法人 知床財団)

知床半島は、世界有数のヒグマの生息地であると同時に、人々が生活し、年間 100 万人以上の観光客が訪れる場所です。ここ 5 年間、国、道、町やその他の機関により統一の方針に基づいた管理が進められ、課題も浮き彫りになってきました。この土地でいかに人とヒグマが共存していくべきなのか、管理の現状や平成 29 年 4 月からスタートする「知床半島ヒグマ管理計画」を紹介しながら考えます。

3月4日(土) 18:30~20:30

☆ 島根県における地域一体となったクマ対策～獣害に強い地域づくりを目指す～

澤田 誠吾 (島根県中山間地域研究センター)

今、クマなどの鳥獣対策用の電気柵などの技術は、ほぼ確立されて来ました。今後とも新たな対策技術の開発は必要ですが、最も大事なことは地域住民が鳥獣対策についての認識を変えることです。それができれば、鳥獣に立ち向かうことができる地域に変貌できると考えます。すなわち、「鳥獣対策」は、地域の住民の意識を改革する「人(ひと)対策」であるということです。被害を防ぐことができるのは行政や研究者ではありません。地域のみなさんこそが被害を防ぐ実力者であり、「地域一体となった被害対策」の主役なのです。人口減少や高齢化の中、ツキノワグマをはじめさまざまな鳥獣の被害に対応してきた、島根県の山間部での取り組みを紹介します。

3月5日(日) 14:00~16:00

☆ 大都市札幌におけるヒグマ対策とその課題 佐藤 喜和 (酪農学園大学)

環境共生都市を目指す人口 195 万人の札幌市では、近年ヒグマの市街地出没が増加しており、環境共生の理念と矛盾しない都市の野生動物管理が求められています。市街地周辺の森林に暮らすヒグマの生息実態、世界的に例のない「100 万都市におけるヒグマとの共生」を目標にした札幌市の取り組み、今後目指すべき姿とその課題について紹介します。

